

教育講演 1

大規模災害時の健康支援～職場での対応

浅沼 一成
厚生労働省

わが国には、地震、噴火、台風、積雪、大火、洪水、津波などにより、各地で大規模災害に見舞われてきた歴史がある。

こうした大規模災害については、復旧が円滑に進み、一時的な避難で終わることもあるが、復旧が進まないことで、被災された住民等の避難所生活が長期化することもある。その場合、被災された住民等に生ずる心身様々な健康課題が大きな問題となる。

例えば、避難所生活の長期化により心身の疲労が蓄積し、運動不足となることから発症する生活不活発病（廃用症候群）や、2004年の新潟県中越地震、2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震では、避難所不足や度重なる余震の恐怖などから、連続する車中泊を誘因として発症するエコノミークラス症候群が生じ、場合によっては死に至るケースもあった。

また、避難所では、衛生状態が厳しい環境下での生活を余儀なくされることから、感染症や食中毒の集団発生についても、十分注意しなければならない。特に、断水等により清潔な水が確保できないため、手洗いが十分にできない状況が続くことは、こうし

た集団発生を起こすリスク要因である。

さらに、避難の長期化に伴い、バランスを欠いた食事による栄養面の偏りや、被災状況や将来への不安などが誘因となった精神面の悪化なども、重要な健康課題である。

こうした健康課題は、高齢者や障がい者など、いわゆる生活弱者に強く生じる傾向があるが、自宅全壊等のため避難所から職場に通勤する者や被災地で復興支援業務に専従する者もいることなどから、災害が長期化することにより、職場の産業衛生スタッフが健康支援を行う必要もあると考えられる。

本講演では、東日本大震災や熊本地震での経験に基づき、産業衛生の視点から健康支援へのアプローチを試みたい。

座長略歴

橋本 雄幸（はしもと かつゆき）

【学歴】

1982年 東京慈恵会医科大学 医学部 卒業

1992年 医学博士 授与

【職歴】

1982年 東京慈恵会医科大学附属病院 研修医

1984年 東京慈恵会医科大学 第一外科学教室 医員

1987年 同上 助手

1996年 東京慈恵会医科大学附属病院 一般・消化器外科診療医長

1997年 社会保険大宮総合病院（派遣） 外科部長

2000年 東京慈恵会医科大学 外科学講座 講師

2002年 汐留みらいクリニックを開設 院長（現在に至る）

【医師会役員歴】

2009年 社団法人 東京都港区医師会 理事

2011年 社団法人 東京都医師会 理事

2013-2016年 一般社団法人 東京都港区医師会 会長

2013年 公益社団法人 東京都医師会 理事（現在に至る）

【専門分野】

一般外科学、消化器病学

【資格】

外科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医

【主な所属学会】等

日本外科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本臨床外科学会

演者略歴

浅沼 一成（あさぬま かずなり）

【学歴】

1991年 東京慈恵会医科大学 医学部 医学科 卒業

【職歴】

1991年 厚生省入省

1996年 文部省体育局学校健康教育課専門員

1998年 厚生省健康政策局研究開発振興課課長補佐

2000年 佐世保市保健福祉部長（佐世保市保健所長）

2003年 厚生労働省医薬食品局安全対策課副作用情報専門官

2004年 厚生労働省健康局総務課課長補佐

2005年 鹿児島県保健福祉部次長

2007年 厚生労働省大臣官房厚生科学課健康危機管理対策室長

2009年 内閣官房新型インフルエンザ等対策企画官

2011年 厚生労働省医薬食品局審査管理課医療機器審査管理室長

2013年 厚生労働省医薬食品局血液対策課長

2015年 厚生労働省健康局結核感染症課長

2007年 慈恵医大環境保健医学講座非常勤講師

2010年 慈恵医大環境保健医学講座客員教授

【受賞歴】

なし

【専門分野】

公衆衛生、産業保健、学校保健

【資格】

日医認定産業医

【主な所属学会・役職】等

日本公衆衛生学会

日本産業衛生学会